

2008年日本言語政策学会シンポジウム

Common European Framework of Reference
for Languages (CEFR) と日本での応用可能性？

CEFRの批判的「輸入」は可能か

西山教行（京都大学）

欧州評議会の結成(1949)

- ◎ 民主主義と法の支配の保護
- ◎ 人権の保護
- ◎ ヨーロッパの文化的アイデンティティと多様性の促進
- ◎ 「第一の目的は、欧州が長く抱いてきた理想と原則を守り発展させるとともに経済的・社会的発展を促進するため、加盟国のより緊密な統合を実現することである」。

欧州文化協定(1954)

- ◎ 協定締結各国に，相互の言語教育の振興を求める
- ◎ 教育，文化，青少年，スポーツに関する協力政策の枠組み
- ◎ 加盟国に，各国の言語，歴史，文明の学習の奨励
- ◎ 加盟国に，自国の言語，歴史，文明の研究を奨励

欧州評議会の言語文化プロジェクト

- ◎ 現代語教育
 - 1964年以降，現代語プロジェクトの推進
- ◎ 移住者の言語教育，移住者の子弟の就学化
- ◎ ヨーロッパ市民教育

言語教育政策の原則 1

◎ 多言語主義

- ヨーロッパ市民は複数の言語によるコミュニケーション能力を獲得する

◎ 言語的多様性

- 多言語状態にあるヨーロッパにおいて、すべての言語は等しい価値を持つ

◎ 相互理解

- 言語教育は異文化間コミュニケーションと文化的差異の承認にかかわる

言語教育政策の原則 2

◎ 民主的市民権

- 市民の多言語能力により，多言語社会の民主化，社会化に関与する

◎ 社会統合

- 言語学習は，個人の発展，教育，雇用，移動などの機会均等を確保する

ヨーロッパ統合の流れ

- ◎ 1949年, 欧州評議会結成
- ◎ 1951年, 欧州石炭鉄鋼共同体(ECSC)成立 (6カ国)
- ◎ 1957年, ローマ条約により欧州経済共同体(ECC)成立
- ◎ 1959年, 欧州人権裁判所 (欧州評議会) の設立
- ◎ 1967年, 欧州共同体成立(EC)
- ◎ 1973年, 1981年, 1986年, 加盟国拡大
- ◎ 1991年, マーストリヒト条約により欧州連合(EU)誕生
- ◎ 1995年, 2004年, 2007年, 加盟国拡大 (現在27カ国, 23公用語)

『ヨーロッパ共通参照枠』の誕生

- ◎ 欧州評議会の言語教育プロジェクト（第5期 1997-2001）
- ◎ 1991年のスイスでのシンポジウム「ヨーロッパにおける言語学習の透明性と整合性：目標，評価，証明書」の開催
- ◎ 「ヨーロッパ共通参照枠」と「ヨーロッパ言語ポートフォリオ」の開発を決定

『参照枠』の目的

- ◎ 各国の教育機関の協力を促進する
- ◎ 言語教育における各国の評価を相互承認するための基礎作り
 - 学生，市民の移動を促進
 - 相互理解をすすめる
 - 民主的ヨーロッパの形成
- ◎ 学習者，教師，カリキュラム編成者など教育関係者がそれぞれの行動の位置づけを助ける

『参照枠』のインパクト

- ◎ 評価基準の透明化
- ◎ 多言語主義から複言語主義へ
- ◎ 部分的能力の承認
 - ネイティブをモデルとしない言語学習
- ◎ 異言語教育間の連携
- ◎ 異なる学習課程の接続
- ◎ 外国語教育の国際連携

日本における『参照枠』の受容

- ◎ 学術的関心
 - 『参照枠』の共通参照レベルについて
- ◎ 「コミュニケーション・アプローチ」との混同
 - 一般概念か，特殊概念か？
- ◎ 共通参照レベルを無批判的に導入する教材
- ◎ 共通参照レベルのみに向けられた関心

なぜ共通参照レベルの無批判的導入か？

- ◎ 日本の評価基準の曖昧さ
- ◎ 日本の資格試験や評価基準は運用能力とよりも、言語能力を問う
- ◎ 異文化間能力は想定外
- ◎ 日本の外国語教育・学習文化の反映
- ◎ 共通参照レベルの透明性を評価する

「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想

◎ 国民全体に求められる英語力

- → 中学・高校での達成目標を設定。
- ・ 中学校卒業段階：挨拶や応対等の平易な会話（同程度の読む・書く・聞く）ができる(卒業者の平均が英検3級程度。)
- ・ 高等学校卒業段階：日常の話題に関する通常の会話（同程度の読む・書く・聞く）ができる(高校卒業者の平均が英検準2級～2級程度。)

実用フランス語検定5級

◎ 程度

- 初歩的な日常フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる。標準学習時間：50時間以上（大学で、週1回の授業なら1年間、週2回の授業なら半年間の学習に相当）。

◎ 試験内容

- 読む初歩的な単文の構成と文意の理解。短い初歩的な対話の理解。聞く初歩的な文の聞き分け、挨拶等日常的な応答表現の理解、数の聞き取り文法知識初歩的な日常表現の単文を構成するのに必要な文法的知識。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法の範囲。

スタンダードとしての『参照枠』の影響

◎ 国際交流基金の「日本語スタンダード」構想

- 国際社会における日本語普及に対応
- 相互理解についての日本語
- 多言語教育は想定外
- 共通参照レベルの模倣？

◎ CEFRjapan（世界水準の英語教育）構想

- 国際業務の専門分野で役に立つコミュニケーション能力を最高到達基準とし，そこから逆算した基準を作成
- 多言語教育は想定外
- 共通参照レベルの模倣？

『参照枠』から考える言語教育

- ◎ 多言語教育
 - 英語プラス一言語の思想の意義付け
 - 隣人の言語を学ぶ思想
- ◎ 言語教育の協力連携
 - 到達目標
 - カリキュラム
 - 評価
- ◎ 教育課程の連携
 - 高大接続

日本にとって隣人の言語とは

- ◎ 隣国の言語：中国語，韓国語，ロシア語
- ◎ 移住者の言語：ブラジル・ポルトガル語，スペイン語
- ◎ 国内の異言語話者との具体的コミュニケーションが課題
 - これらの言語教育は隣人の言語として位置づけられているか？
 - ドイツ語，フランス語をどのように意義づけるか

北東アジアの統合？

- ◎ 「北東アジア共同体」の可能性
 - イニシアティブの困難さ
 - ヴァーチャルとして，実態として？
- ◎ 北東アジアにおける主権の承認
 - 台湾，朝鮮半島，竹島，北方領土，東シナ海，尖閣諸島
- ◎ 政治的，経済的，言語的多様性を生きる北東アジア

『北東アジア共通参照枠』？

- ◎ 政治的，社会的，文化的，宗教的多様性
- ◎ 英語の圧倒的優位
- ◎ 隣人の言語の学習
 - 中国語，韓国語，ロシア語，スペイン語，ポルトガル語
 - ドイツ語，フランス語は不要か？
- ◎ 学生移動の不均衡
 - 隣国からの多くの留学生
 - 日本人の多くはアメリカへ，隣国へはごく少数

『ヨーロッパ言語教育政策策定ガイド』

- ◎ 複言語主義に関する理論
- ◎ 教育環境の分析
- ◎ ガイドのパラメーターからヨーロッパ各国の教育環境を分析
- ◎ 複言語教育推進のツール

『ヨーロッパ言語ポートフォリオ』

- ◎ 学習者にとって『参照枠』を活用するツール
- ◎ 自律学習に向けたツール
- ◎ 自己評価
 - 共通参照レベルに基づく自己評価
- ◎ 学習履歴
 - 学習の認知，内省的思考の促進
- ◎ 資料集
 - 学習成果の可視化

「共通参照枠」の可能性

- ◎ 言語教育の目標設定の重要性
- ◎ 教育課程の連携（小中，中高，高大，学年別など）
- ◎ 異言語教育間の連携
- ◎ 言語教育に共通の専門用語
- ◎ 国内での対話
- ◎ 国外との対話
- ◎ 言語教育をめざす政治性
- ◎ 社会政策としての言語教育